

令和 6 年度第 1 回鎌倉市地域福祉計画推進委員会 委員意見を踏まえた推進状況報告書（案）の修正			
番号	分類	意見	修正点
1	総括	目標 3「地域における福祉活動や人材への支援」 民生委員の成り手不足に関する対策に関して、仕組みづくりだけでなく、検討状況が見えるとよい。	令和 5 年度推進状況報告書 目標 3 の注釈 5 として、具体的な検討状況を以下のとおり追記した。 （注釈 5）令和 5 年に発足した「鎌倉市民生委員児童員のなり手を増やすワーキンググループ」では、これまで 8 回の協議を重ね、①現任委員への意識調査の実施（アンケート）、②活動内容の見直し（基本活動と自主活動に整理）、③候補者向けリーフレットの作成（イメージの刷新）、④活動の周知（SNSの活用・地域行事でのPR）などの取組みを行ってきた。
2	総括	目標 3「地域における福祉活動や人材への支援」②進捗管理の状況（2）具体的な取組に関して「ボランティア育成や活動場所の確保を図っていく」とあるが、具体的な取組が書かれているとよい。	令和 5 年度推進状況報告書 目標 3 の注釈 4 として、具体的な取組を以下のとおり追記した。 （注釈 4）令和 5 年度の主な取組は以下の通り。 ○育成 ・ボランティア団体への助成 ・ボランティア入門講座や研修会の開催（年 4 回程度） ・地下道ギャラリー（年 2 回計 40 団体）及び鎌倉 FM（毎月 1 回 1 団体紹介）での団体紹介 ○活動場所の確保 ・福祉センター内ボランティア活動室の年間利用計画を調整
3	総括	目標 3「地域における福祉活動や人材への支援」③今後進むべき方向性「近隣自治体との差別化」との記載があるが、なぜ差別化を図らなければいけないのか。自治体間で共存するイメージが良いと感じる。また、差別化という言葉はあまり印象が悪くないと思う。	令和 5 年度推進状況報告書 目標 3 ③今後進むべき方向性 適切な表現を検討した結果、比較するような記載はせず、「近隣自治体との差別化を図りながら」を削除した。
4	総括	目標 5「情報の収集と提供」 防災分野の記載が多いため、「情報の収集と提供」として、その他の分野も入れたほうがよい。	令和 5 年度推進状況報告書 目標 5 今後すすむべき方向性において、SC（生活支援コーディネーター）や孤独孤立対策官民連携プラットフォーム「人と地域がつながるプラットフォーム（通称ここま）」に関する事項を追記し、地域福祉や共生社会の推進の視点を盛り込んだ。記載内容は以下のとおり。 収集・整理すべき社会資源については、生活支援コーディネーターを中心に、地域資源および課題の把握、地域（事業者・団体・市民）の交流促進を図りながら資源の見える化を進める。あわせて、令和 6 年度に創設した孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム「人と地域がつながるプラットフォーム（通称ここま）」を通じて、孤独・孤立問題を複雑化させないための地域コミュニティの場の形成、孤独・孤立の 0 次予防につながる新たなまちの魅力の共創を図りながら、地域で新たな創出された資源を市民にわかりやすく情報発信するツールを開発していく。 また、災害時に支援を要する非難行動要支援者が、福祉事業者、支援団体、当事者団体、地域の住民らとつながれるよう、発災時にも活用できる多様な社会資源を、引き続き収集・整理していく。
5	目標⑥ ケアラーへの支援	6 施策体系（3） ケアラー支援に関する施策の推進①から⑥ ケアラー支援の組織化、当事者団体づくりも進めてもらいたい。また、類型別に分科会のような形で組織した方がやりやすいと思う。	目標 6「ケアラーへの支援」P18に当事者団体への支援として以下の取組を記載した。なお、当事者団体づくりについては、次期計画で段階的に取り組みことも検討したい。 （3）ケアラー支援に関する施策の推進 ④つながり・支え合いの推進 【6-3-4-1】当事者団体等への支援 ピアサポート等を行う団体に対して、当事者同士が悩みや経験を語り合う交流会等の取組や団体間のネットワーク形成を支援します。
6	その他	具体的施策の達成率の A 評価文言について、「又は事業が完了した」→「事業を実施した」、「事業を数値的に達成した」などの文言にする。	A 評価の文言について「事業を実施した」とした。
7	その他	目標 1 から 5 の成果指標は、参考資料として添付する。	各目標成果指標として、最後方のページにまとめた。